

私の居場所はどこにあるのか？

ルカ 2:1-20

1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。
 2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。
 3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。
 4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
 彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、
 5 身重になっているいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。
 6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、
 7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
 8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。
 9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。
 10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。
 11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
 12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つめます。これが、あなたがたのためのしるしです。」
 13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。
 14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」
 15 御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。
 「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」
 16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごを捜し当てた。
 17 それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。
 18 それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。

19 しかしマリヤは、これらのことをすべ(1)て心に納めて、思いを巡らしていた。
 20 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので(1)、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

ヨハネ 1:10-16

10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。
 11 この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。
 12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。
 13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。
 14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちがこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みと(6)まことに満ちておられた。
 15 ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。「『私のあとから来る方は、私にまさる方である。私より先におられたからである』と私が言ったのは、この方のことです。」
 16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。



12月25日が近づいてきましたが、この時期は、クリスマスの出来事と、御祝いするイエス様の誕生について、立ち止まって考えてみる、良い機会です。

クリスマスは1年の中でも特別に、意味のある日です。最近ではクリスマスのイルミネーションや飾りを たくさんの日本人も楽しむようになりました。きっと、皆さんの近所でもツリーのイルミネーションや、サンタ、トナカイ、星の飾りが見られるのではないのでしょうか。でも、クリスマスの意味を物語る、シーン、つまり、マリアとヨセフ、イエス様、また、博士達の姿をかたどった飾

りはあまり見られません。

教会ではクリスマスの劇が伝統的に此の時期に行なわれます。子供たちが衣装を着て、ヨセフとマリア、宿屋の主人などの役をして、イエス様がお生まれになった状況を劇を通して再現するのです。劇などをする事は、心からイエス様の誕生を祝い、イエス様にフォーカスをあて、クリスマスに起こった事を考える素晴らしいチャンスです。

ここで現代の、あるたとえ話について皆さんにお分かちしたいと思います。それはある小さい街の、小さい学校で起こったことです。その年のクリスマスの劇でのことでした。そこで起きた出来事は、クリスマスの本当の意味や、イエス様と深い、つながりがありました。

クリスマスの出来事はある事を 私たちにはっきりと見せてくれます。それは、造られた人類がどれほど罪深くて、神様は、私たちを拒絶されないということです。慈悲深く、愛と恵みをもって、自分の方から、私たちへと働きかけて下さるのです。

恒例のクリスマスの劇

その町で、ベティーの事を知らない人は居ませんでした。ベティーは17年前に悲しい事に不自由な体をもって産まれました。けれど、

彼女の本質的な、スピリットや、精神は健康そのものでした。彼女が生まれたとき、誰も、彼女が長く生きられるとは考えていなかったのですが、想像に反して、17歳になっていたのです。ねじれた背骨（せぼね）とひどい猫背の彼女の姿は遠くからでも、すぐに分かるほどでした。

クリスマスの直前です、毎年の街の伝統と成っていたクリスマスの劇のために オーディションがありました。限られた数の役のために、沢山の子供たちが毎年オーディションを受けました。小さい



子供達は羊飼いの役をしたいとおもったり、大きな子たちは、博士の役を願いました。また、歌の上手な子供たちは天使たちの聖歌隊に入りたいと思いました。そして、更に限られた数人は宿の主人の役や、マリアやヨセフ、羊飼いの前に現れる、主の使いなどの、おもだった役をしたいと願ったのです。

ベティーはクワイア（聖歌隊？）の部屋の外で座って待っていました。でも、彼女は悩んでいたのです。“私は何をしに来たのかしら？ 誰も私を選んでくれない。もうあきらめて、考えないでおこうと思うのだけれど、また辛い思いはしたくない。音楽の先生は私を選んでくれないだろうし。私はどこにもとけ込めないし、受け入れてもらえない。私の居場所はどこにもない。英語で言えば、“I just don't fit in” という表現が一番あてはまります。

数年前にベティーはオーディションを受けたのです。その時の音楽の先生は今の先生とは違う人でした。その先生は30年以上も劇の企画をした経験がありましたが、一目ベティーを見て、あなたに適切な役はないですよ。You just don't fit in” という表現をされたのです。体の不自由な子供の役はこの劇にはありませんよ。オーディションのためにせっかく練習した歌も、少しも歌わせてもらえぬまま、ベティーは恥ずかしい思いで、深く、傷ついて、不自由な体をひきずって家に帰らなければならなかったのです。二度とオーディションは受けまいと、心に決めていたのですが、その先生が 幸い退職されたのです。

今年就任した新しい先生は、前の先生と違って、優しく、思いやりのある教え方をする先生でした。ベティーはこの先生がすぐに大好きになりました。一生懸命努力す

る事を求められましたが、親切に、励ますように指導をする先生でした。先生は情熱をこめて大きな声で力強く歌いました。先生がベティにオーディションに来るようにと声をかけたのです。先生に言われたので、オーディションに行く事にしましたが、部屋の外で、自分の番を待ちながら、今のうちに帰った方がいい。また傷つきたくない。拒絶されたくない。そして、やはり、こっそりあきらめて家へ帰る事に決めたのですが、丁度そのとき、ベティーの名前が呼ばれました。



オーディションで歌い終わると、音楽の先生は、親切な表情で、“ありがとう、オーディションで選ばれた人の名前は、明日 貼り出されますよ。”といいました。その晩、ベティーは眠れませんでした。彼女は、周りのみんなのなかにかうまくとけ込めない、自分はみんなと同じではない、という事実と、普通の子達のように、みんなに受け入れてもらいたい、という強い願いとが頭の中で交差していました。朝起きると、心配と緊張で胃がいたむほどでした。

こわごわ、貼り出されたリストを見に行きました。天使のクワイアに選ばれた子供たちの名前が紙の下の段にありましたが、案の定、ベティーの名前は見つかりませんでした。あ、やっぱり、受け入れてもらえなかった。がっかりし

て、その場から去ろうとした時、一瞬、視野に、飛び込んで来た物がありました。ベティーの名前が一番上に書いてありました。この劇には1人だけ、ソロで歌う役があるのですが、そのソロのために、ベティーが選ばれたのです。それは主の使いの役で、主の使いである天使が、神の子イエス様に歌う という役で、それにベティーが選ばれたのでした。

これは何かの間違いに違いない。その役は目立ってしまうし、と。ベティーは先生に確かめに行きました。先生は、ベティーに嫌な思いをさせたくないと言いました。今年はこの役に関しては、以前とはすこし 配置をかえることにしたと、先生は言いました。ベティーは、目の届かないところに動かされるんだと瞬間に思ったのです。

でも、先生は次のようにベティーに言いました。“ベティーの歌は、劇の中心でもっとも重要な部分です。ですから ステージの真ん中の他の天使のクワイアの誰よりも一段高いところにベティーの場所をつくります”。と。ベティーは、これを聞くと長年の辛い気持ちを抑えきれなくなりました。“先生、私のこの、不自由な姿が、劇を台無しにしてしまいませんか？ みんなの前に目立つ所に、私がたってもいいんですか？”先生は優しくベティーに言いました。“ベティ、どこに立って歌ってもいいんですよ。”ベティーは、先生が心からベティーをそのまま、受け入れて下さっている事を感じました。リハーサルはの練習は厳しいもの

でしたが、喜びに満たされたベティは練習を積み重ねて、本番で歌ったのでした。

この小さい町では、このようなイベントでは町中の人があつまります。クリスマスの前の日曜日、町中の人々が劇を見にきました。町中がベティが心からイエス様に歌う姿をみたのです。この天使の歌声は、これまでにない美しい声だったということでした。

ベティーの不自由な姿に見慣れていた町の人たちは、ベティーの現実の健康状態がかなり悪化していた事に気付いていませんでした。ですから、しばらく後で、ベティーが突然亡くなった時は大きなショックでした。ベティーのお母さんが娘の最後の願いを音楽の先生に頼みました。お葬式で歌って下さいと。

そして、お葬式の日が来ました。その日、音楽の先生は2人のベティーのクラスメートに支えられて立ち上がりました。両側から支えられて、車いすから立ち上がってベティーの為に歌いました。丁度クリスマスの劇の中で、ベティーが心からイエス様に歌を歌ったように先生は心から歌ってくださったのです。

このたとえ話は、小さな町のクリスマスに起こった、哀れみと理解と、受け入れを物語っています。ましてや、本当のクリスマスの出来事はキリストによって全世界への、神の哀れみと理解と受容の深さと強さを明らかにするのです。

神様の深い哀れみとご理解そのものがクリスマスなのです。

本当のクリスマスは神様の哀れみと理解とを明白にしてくれます。神様は人となって私たち人間の中に住みともに、生きられました。肉体をもって人となる事を選んで、神様はご自分を表して下さいました。“言葉はひととなって”ヨハネ1:14とあります。

“神様は、私たちが、触れることができる、また、足下によらせてもらえる、手の届く場所にいる、そういう存在となってくださったのです。人間の体をもって、私たちが体験する事を体験して下さいました。そして、人間の苦しみを味わって下さいました。私たちと同じように疲れを感じて下さり、私たちの弱さをご存知です。そして、私たちの日頃の苦労を理解して下さいます。

イエス様は深い哀れみの心であなたを見ていて下さいます。イエス様は、群衆をみて、哀れみを感じられたと、ある聖書の箇所にかかれてあります。この哀れみ、または慈悲という言葉の原語の意味は、ただ単にかわいそうに思ったのではなく、胸が締め付けられるような思いをしたという意味です。イエス様は、不自由な人の痛み、病気の人の辛さ、ハンセン病患者の寂しさ、罪深い人の恥る気持ち、などすべて、胸の奥底で感じて下さったのです。私たちが一番必要としている事を神様は理解して下さいています。

一人子を通して神様が私たちを受け入れて下さる事、それがクリスマスです。

マタイ11:19には、イエス様は罪人の友達であると書かれています。

社会から拒絶されたり、人に受け入れられず、苦しんでいる人は、イエス様に拒絶されるかもしれない、などとは、恐れずにイエス様



に近寄りました。イエス様を信じる人は、決して、“あなたのくる場所ではない”などと言われる事はありません。イエス様にとって、あなたは貴重なのです。あなたが良い人間だからではなく、素晴らしい人間だからなのでもありません。キリスト様が、私たちのために偉大な事を成し遂げ下さったからなのです。

神様を必要としているこの苦しみの多い世界への愛。それがクリスマスです。神様は、私たちを神様に似た形に造られ、親しい神様との交わりを持ちながら、私たちがこの地で人生をエンジョイする事を願われました。けれど、最初か

ら、人間は、別の道を選び、神様にそむいて来たのです。私たちこそが神様を拒絶して来たのです。私たちの生活から神様を押し

したのは私たち自身です。神様との関係を立て直す事が必要なのです。

神様は、私たちの、望みのない状態を見て、愛をもって答えて下さいました。イエス様が地上へ来て下さり、生まれて下さったのは、そのためでした。そして、成長して、大人となり、完全な一生を過ごされました。私たちの罪を赦すために、自分の命を捧げて、十字架にかかって下さいました。福音の中心は、神様が一人一人を愛して下さいという所です。十字架でイエス様が死んで下さって初め

て神様は、私たちを愛されたのではなく、神様が既に私たちを愛して下さいていたから、イエス様は私たちのために死んで下さいました。私たちの罪の償いを罪のないイエス様が全て背負って下さったのです。

“しかし、この方を受け入れた人々、すなわちその名を信じた人々には神の子供とされる特権をお与えになった。”(ヨハネ伝1章12節)

神様を信じる人は、息子、娘として神様は扱って下さり、自分の一人子を愛して下さいると同じように愛して下さいます。

あなたが心から受け入れてもらえて、とけ込める場所はどこにありますか。神様の深い愛と哀れみをこの様に受ける事は無理だと思っ
てはいませんか？クリスマスは、あなたを神様の家族へと招待しています。クリスマスに起きたこの

わしい姿です。神様と永遠に恵まれた関係を望むならば、イエス・キリストを信じて、罪を悔い改めることが必要なのです。他には道がありません。キリストのところへ信仰をもって来る人が、神様に拒絶される事はありません。私た

そして、クリスマスがあるからこそ、あなたが受け入れられる場所が用意されているのです。



出来事は、神様の愛と理解を明らかにして、私たちにを見せてくれます。イエス様が人間となって下さった事によって、私たちは、イエス様のそばへと、歩み寄ることができるようになったのです。オーディションや、テストで、あなたの能力を証明したりする必要は無いのです。神様に受け入れて頂くということは、自分の良い行いで得る物ではないからです。必要なものは、へりくだった心で、神様の恵みと哀れみの必要性を認める事なのです。へりくだりの心を持つ状態こそが、私たちにふさ

ちを受け入れて下さるのは、キリストご自身なのです。

キリストのところへ、来て、キリストを信じて下さい。

思いやり深く、全てを理解して下さいます。

救い主としてキリストが成し遂げて下さった罪の赦しを信じて下さい。

クリスマスはあなたのためでした。

祈りましょう。

主なる神様、

救い主として、イエス様を送って下さって有り難うございました。

あなたの世界への愛と、哀れみがどれほど深いものかを、理解させて下さい。

キリストを通してあなたが私たちに差し出されたすべてに、

私たちが喜んで、答える事ができますように、

今年のクリスマスこそが、
神様の物語の中に、私自身が含ま
れていることを理解する、
特別な時となりますように。
イエス様のお名前です。祈ります。
アーメン